

男児尿道口に発生した尖圭コンジローマの1例

帝京大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 梅田 隆教授)

高月健太郎, 上山 裕, 佐藤 聡, 雨宮 裕

飯泉 達夫, 矢崎 恒忠, 梅田 隆

A CASE REPORT OF CONDYLOMA ACUMINATUM
OF URETHRAL MEATUS IN A BOY

Kentaro Takatsuki, Yutaka Kamiyama, Satoshi Sato,

Hiroshi Amemiya, Tatsuo Iizumi,

Tsunetada Yazaki and Takashi Umeda

From the Department of Urology, Teikyo University School of Medicine

A 4-year-old boy was referred for treatment of papillary tumor at the urethral meatus. He was well until December 1990, when his mother noticed a tumor at the urethral meatus. The tumor was resected elsewhere. However, a similar tumor was noted again at the urethral meatus in May, 1991.

The patient was admitted on September 16, 1991. Retraction of the phimotic foreskin revealed a well-demarcated papillary mass, approximately 2×2 mm in diameter, at the urethral meatus. There were no tumors on foreskin or glans. Under general anesthesia endoscopy was performed to locate other tumors at the urethra and bladder. No tumors were found elsewhere. Then the meatal tumor was resected surgically. Pathology was condyloma acuminatum. There was no recurrence one year after surgery.

We also reviewed 24 boys with condyloma acuminatum, including 13 boys with a solitary condyloma at the urethral meatus, reported in Japan.

(Acta Urol. Jpn. 39: 479-481, 1993)

Key words: Condyloma acuminatum, Urethra, Childhood

結 言

尖圭コンジローマはしばしばみられる疾患だが、小児では比較的稀である。しかし、小児の報告は最近徐々に増えている。われわれは、最近男児の尿道口に限局した尖圭コンジローマの1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

患者: 4歳, 男児

主訴: 陰茎先端部腫瘍

家族歴・既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1990年12月頃、排尿時痛があり、母親が尿道の腫瘍に気付いていたが、放置していた。しかし、増大してきたので近医を受診し、切除術を受けたが、1991年5月頃より同一部位に再発を認めたので、9月に当科を受診した。手術目的で1991年9月19日入院と

なった。

入院時現症: 身長 104.4 cm, 体重 16 kg, 全身状態は良好。胸部、腹部ともに異常所見は認められなかった。仮性包茎が認められたので、包皮を反転させると、外尿道口に径約 2×2 mm の乳頭状腫瘍を認めた (Fig. 1)。

検査成績: 血算、生化学および尿検査にて異常所見はみられなかった。

手術所見: 9月20日、全麻下に内視鏡にて尿道、膀胱を探索したが、他に腫瘍はみられなかった。ついで尿道の腫瘍を切除し、止血を確認した後、5-0 プレーンにて結節縫合し、10 Fr. フォーリーカテーテルを留置して手術を終了した。

病理所見: koilocytosis と parakeratosis を伴う肥厚重層扁平上皮の中に、papillary nature を有する移行上皮層がみられ、尖圭コンジローマと診断された (Fig. 2)。



Fig. 1. Papillary tumor at the meatus



Fig. 2. Histology of the resected tumor

術後経過：術後1日目に歩行可能となり，9月24日に退院した．その後外来にて，定期的に経過観察しているが，術後約1年経った現在再発は認められていない．

考 察

尖圭コンジローマはヒト乳頭腫ウイルス (human papilloma virus, HPV) による疣贅で性行為感染症 (sexually transmitted disease, STD)^{1,2,5,7)} であり好発年齢は20歳代から40歳代であり^{2,5)}，小児にみられることは比較的稀である⁷⁾．今回われわれが経験した男児本邦報告例としては，24例目と思われる．以下これら24例について述べる．

年齢は1～5歳が，20例 (83.3%) と最も多く，乳幼児が大部分を占めていた．ついで6～10歳が3例 (12.5%)，11～15歳が1例 (4.2%) であった．

主訴については，腫瘍または腫瘍が19例 (79.1%) と最も多く^{1,2,7)}，出血が3例 (12.6%)，掻痒感が2例 (8.3%) であった．

発生部位は外尿道口が13例 (54.2%) で過半数を占めており，亀頭部および包皮内板が6例 (25.0%) とついで多かった．他の5例は亀頭部，冠状溝，包皮内板などにも多発していた．

腫瘍数については，単発は14例，多発は10例と単発が若干多かった．

治療法では，切除および電気焼灼が12例と半数を占めており切除のみが5例 (20.9%)，切除および電気凝固が4例 (16.6%)，電気焼灼ないし電気凝固のみが3例 (12.5%) であった．以上より切除の行われた症例は21例 (87.5%) でほとんどの症例で切除術が施行された^{1,2,5-7)}．

つぎに外尿道口にのみ発生した13例の尖圭コンジローマについても同様に検索した．

年齢別では1～5歳が10例 (76.9%) と乳幼児に多くみられている．主訴は，陰茎先端部腫瘍および腫瘍が4例 (30.8%)，外尿道口腫瘍が3例 (23.1%) となっている．再発に関しては，再発なしが9例と大部分を占めており，再発のみられたものは3例であった．治療法は，切除および電気焼灼が6割 (46.2%) と過半数を占めており，切除の行われた症例は10例 (76.9%) で，ほとんどの症例で切除術が施行されていた．また，尿道膀胱鏡が施行されたのは13例中2例であった．

本疾患は尿道や膀胱にも発生することがあるので，小児においても尿道口に発生した尖圭コンジローマに関しては可能な限り，内視鏡検査による下部尿路の検索を行うべきであろう．本疾患は性行為感染症 (STD) の一つであるが，小児の場合の原因は不明なことが多い．家族内感染，性的虐待などが原因と考えられているが^{3,4)}，本邦報告例では原因について記載してあるものはほとんどない．自験例でも，母親よりの問診では原因は断定できなかった．今後，原因についても探索する必要があると思われる．

結 語

1. 4歳男児の尿道口に発生した尖圭コンジローマの1例を報告した．
2. 本邦における男児の尖圭コンジローマ23例と自験例を加えた24例について検討した．
3. さらに尿道にのみ発生した13例についても検討した．
4. 本邦においても小児の尖圭コンジローマの報告は

徐々に増えている。

5. 尿道尖圭コンジローマの患者に対しては尿道膀胱鏡検査を行うべきと考える。

本論文の要旨は, 第1回日本小児泌尿器科学会(1992年7月10日, 名古屋)で発表した。

文 献

- 1) 川島清隆, 黒川公平, 高橋溥朋, ほか: 小児外尿道口より発生した尖圭コンジローマの3例. 西日泌尿 50: 197-200, 1988
- 2) 高橋義人, 武田明久, 栗山 学, ほか: 小児外尿道口に発生した尖圭コンジローマの1例. 泌尿紀要 31: 1483-1487, 1985
- 3) 西本憲治, 川下英三, 米田健二, ほか: 幼児陰茎尖圭コンジローマの2例. 臨泌 44: 63-65, 1990
- 4) 徳中荘平, 西原正幸, 山口 聡, ほか: 男児外尿道口に生じた尖圭コンジローマ. 臨泌 41: 1089-1091, 1987
- 5) 岡根谷利一, 松下高暁, 渡辺節男: 幼児の陰茎にみられた尖圭コンジローマの2例. 臨泌 37: 751-753, 1983
- 6) Gohji K, Mizuno Y, Gotoh A, et al.: Condyloma acuminatum of the urethral meatus in a child: A case report and review of the relevant literature in Japan. Nishinippon J Urol 52: 1229-1232, 1990
- 7) 新村真人: 尖圭コンジローマと性器ヘルペス. 泌尿器外科 4: 667-670, 1990

(Received on October 14, 1992)
(Accepted on January 28, 1993)